

日本人頭蓋計測(第一報)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38285

十全會雜誌

第十八卷第三號(第八十六號)

大正二年三月一日發行

原着及實驗

●日本人頭蓋計測 (第一報)

中野鑄太郎

緒言

余ハ、先年金澤醫學專門學校解剖學教室頭蓋標本ニ就キ、容積等二三ノ計測ヲ行ヒ、本誌(第四十九號)ニ報告シタリ、而シテ當時ノ目的ハ、頭蓋ノ形狀類別ヲナサンガ爲メ行ヒシモノニテ、記載單簡且ツ標本モ僅少ナリキ

其後余ハ本校藏スル處ノ、頭蓋骨標本目錄ヲ製スベキ校命ヲ帶ヒ、其準備トシテ、昨夏先ヅ、京都醫科大學教授足立博士ニ就キ、頭蓋骨計測法ノ一斑ヲ學ベリ、而シテ此第一報ハ當時博士示導ノ下ニ京都醫科大學解剖學教室頭蓋標本ニ就キ計測シタル成績ノ一部ト、其後我金澤醫學專門學校解剖學教室ニ藏ムル處ノモノニ就テ行ヒタル成績ノ一部ヲ併記シ、以テ兩教室標本ノ比較ヲ試ミタルモノナリ、抑モ同一人種ノ頭蓋ニ於テモ、各地方ニ

ヨリ多少ノ差異ヲ見ルハ、識者ノ既ニ認ムル處ナルガ故ニ、此ノ成績ヲ以テ本邦人全般ノ頭蓋トシテ、論スルニアラサルハ勿論ナリ、而カモ日本人頭蓋計測事業ノ未完全ナラサル今日ニ於テ、二三地方ノ調査報告ヲ基礎トシテ他人種トノ比較ヲ云爲スルカ如キハ、余ノ敢テスル處ニアラス、余ハ將來本邦各地ニ於テ斯ノ如キ調査ノ進歩スルヲ俟テ後ヲ初メテ、之レヲ論スルヲ至當トスルモノナルト同時ニ本報ニ於テモ後日ノ對照ニ利センカ爲メ、可及的詳密ニ各部計測ノ數字表ヲ掲ケタリ、讀者乞フ幸ニ掲題ノ過大ナルト紙面ノ繁雜ナルヲ咎メサランコトナ

計測材料

本報告ノ材料ハ京都醫科大學解剖學教室頭蓋標本(爾後京都標本ト稱ス)ニ百十九個(男性百三十個)金澤醫學專門學校解剖學教室頭蓋標本(爾後金澤標本ト稱ス)二百八十九個(男性百六十七個)ニシテ全部年齢ノ明カナルモノナリ尙京都標本ニ對シテハ滞在日數ニ限りアリ頭蓋ノ各部全体ヲ計測シタルニアラザルヲ以テ往々金澤標本ト比較シ能ハザル部アルヲ遺憾トス又兩教室標本中頭蓋頂或ハ下顎骨ノ缺損顱骨弓ノ鋸斷齒槽消耗等ノ爲メ必ス各点ヲ計測セシモノニアラス

生地ハ第一表ニ示スガ如ク自然ノ結果トシテ標本所在地ノモノノ最モ多ク即チ京都標本ニ於ケル京都府及其附近金澤標本ニ於テハ殆ント石川縣ナリ隣縣富山ハ京都標本ニ於ケル滋賀縣ノ如シ尙金澤標本ニ不詳ノ多數ニ存スル

ハ多ク小野慈善院ヨリ回送ノ體ヨリ得タルモノニシテ殆ント詳カナラサルモノナルモ恐クハ石川縣ノモノト認メテ可ナルベキモノナリ(生地或ハ原籍地下ナシタルハ生地ノ不詳ナルモノハ原籍地ヲ生地ト推定シタルガ故ナリ)

年齡ハ第二表ノ如ク三歳ヨリ九十二歳ニ至ル各階級ノモノヲ調査シタリ而シテ本表何歳ト稱スルハ普通用フル所ノ算ハ年ニテ計算セリ

計測方法

計測方法ハ足立博士ノ示導ニ從ヒシモノニテ詳細ハ次ニ示スガ如シ各標本ハ必ス二回或ハ三回計測シ其ノ確實ヲ期シ、計測ハ角度ヲ除キ全部「耗」ヲ單位トシ平均數及ヒ率數ハ單位以下二位ヲ殘シ四捨五入法(或ハ三)ヲ用ヒ、截開シタル頭蓋ハ必ス適合セシメ金屬線ヲ以テ結縛セリ

頭蓋最大幅徑ハ全部顛頂骨ノ部面ニ於テ最大幅ヲ呈スル部ヲ正中面ニ直角ニ測ル

頭蓋最大高徑ハ「バジチン」(後頭孔前緣)ヨリ「ブレグマ」(冠處縫合ト矢狀トノ間ヲ測ル)

頭蓋基底長徑ハ「バジチン」ヨリ「ナジチン」(鼻前頭縫合ト正)ニ至ル距離ヲ測ル

全 幅徑ハ左右乳樣突起ノ尖端間ヲ測ル

後頭骨基礎部長徑ハ「バジチン」ヨリ後頭基礎接合ニ至ル距離ヲ測ル(年長者ニ於テハ骨癒合ナスト雖モ多少其間ハ) 僅少ノ線隆起或ハ僅少ノ凹陷ヲ呈ス

後頭孔長徑ハ「バジチン」ト「オヒスチチン」(後頭孔後緣)ノ間ニ於テ測ル 全 幅徑ハ長徑ニ對シ直角ニ最大幅ノ部ヲ測ル

頭蓋地平周長ハ眉間ヨリ地平ニ後頭骨ノ最突隆部ニ至リ頭蓋チ一周シテ測ル 全 額面周長ハ地平位ニ對シ鉛直ナル方向ニ一測ノ耳門上緣ヨリ顛頂チ越エ他側ノ耳門上緣ニ至ル距離ヲ測ル

全 矢狀周長ハ「ナジチン」ヨリ「ブレグマ」及ヒ「ラムダ」(矢狀縫合ト三角)ヲ經テ「オヒスチチン」ニ至ル距離ヲ測ル

前頭骨矢狀周長ハ「ナジチン」ヨリ「ブレグマ」ニ至ル距離ヲ測ル

顛頂骨矢狀周長ハ「ブレグマ」ヨリ「ラムダ」ニ至ル距離ヲ測ル

後頭骨矢狀周長ハ「ラムダ」ヨリ「オヒスチチン」ニ至ル距離ヲ測ル

前頭最小幅徑ハ左右顛頂線間ノ最小距離ヲ測ル

上顎幅徑ハ左右顛頂骨ノ最底部ニテ左右ノ距離ヲ測ル

顛骨弓幅徑ハ左右顛骨弓間ノ最大距離ヲ測ル

上顏面高徑ハ「ナジチン」ト「齒槽點」トノ間ヲ測ル

顏面高徑ハ「ナジチン」ト下顎骨頤部下端トノ間ヲ測ル

眼窠高徑ハ最大徑ヲ測ル

全 幅徑ハ「ダクリチン」(上顎骨前頭突起、前頭骨)ヨリ眼窠外緣ニ至ル最大幅ノ部ヲ測ル(眼窠ハ左側ノミ測ル)

鼻高徑ハ「ナジチン」ヨリ梨子狀口底面迄ヲ測ル(梨子狀口左右ノ下緣チ連結シタル位置ニ於テ)

鼻幅徑ハ梨子狀口ノ最大幅徑ヲ測ル

鼻根幅徑ハ左右ノ「ダクリチン」ノ間ニテ測ル

口蓋長徑ハ後鼻棘ノ尖端ヨリ内側門齒間ニテ齒槽ノ後緣ヲ測ル

全 幅徑ハ左右第二大臼齒ノ部ニ於テ齒槽ノ内側ヲ測ル(幼者ニ對シテハ口蓋橫縫合ノ線

ニ一致スル齒槽内側ニテ行ヒタリ

下顎骨關節間幅徑ハ左右關節ノ外側面ニテ測ル

全 角間幅徑ハ左右兩角ノ外側面ニテ測ル

下顎枝角度ハ下顎骨チ平面ニ置キ枝ノ傾斜チ測ル

以上示ス處ノ部位名稱ノ譯名ハ多ク鈴木博士著「人類」ニ據ル

各部位ノ成績及ヒ比較ノ大要

計測標本全体ノ成績ハ第二八表ニ示スガ如シ今此チ各部位ニ區別シ(自第三表至第七表) 標本箇々ヨリ得タル高徑等ノ最小數乃至最大數ヲ各階級ニ順次配列シ其レニ應スル處ノ頭蓋數及ヒ計測頭蓋總數并ニ其平均數ヲ舉示シ終リ

ニ比較ノ大要ヲ述ベ(幼者ノモノヲ混シ計算シアリ然レトモ幼者必ス小等ノ場合第二八表ハ年齡順ニ記載シア)

多數ヲ占ムル幅徑ハ計測頭蓋全体ニ於テ京都標本ノ一三八耗金澤標本ノ一三七耗ニシテ性ニ區別スレハ男性ハ京都標本一四二耗金澤標本一四三耗女性

京都標本一三六耗金澤標本一三五耗ナリ平均數ニ於テ計測頭蓋ノ少キ京都標本ハ一般ニ金澤標本ヨリモ大ナルハ彼此相違ノ存ス

ノナルヤ否ハ今斷スルコトヲ得サルモ次ノ最大高徑ト共ニ興味アル現象ニアラサルカ、

(最小數一〇耗ノ京都標本ハ二六歳ノ男性)

(ニシテ幅高率數ノ最大數ヲ呈スルモノナリ)

多數ヲ占ムル高徑ハ計測頭蓋全体ニ於テ京都標本一四〇耗金澤標本一二九、一三〇耗ニシテ性ニ區別スレハ男性京都標本一四〇耗金澤標本一三五

耗女性京都標本一三四耗金澤標本一二九耗ナリ平均數ニ於テハ前表ノ如ク

京都標本ハ著シク大ナリ

京都標本ハ計測頭蓋數僅少ナル故金澤標本ノ多數ヲ占ムル長徑ヲ掲ケンニ

男性一〇四耗女性九七耗ナリ而シテ計測頭蓋全体ノ上ヨリ見レハ一〇〇耗ノモノ多數ヲ占ムルナリ、平均數ニ於テハ金澤標本ノ男性ハ京都標本ヨリ

モ大ニシテ女性ハ頭蓋數ノ差異アルニモカ、ソラス京都標本ト金澤標本ハ殆ント同一ノ大サナリ又頭蓋全体ノ平均ニ於テハ金澤標本ハ稍々大ナリ

甲ノ如ク金澤標本ノ多數ヲ占ムル幅徑ヲ掲ケンニ頭蓋全体ニ於テハ九八耗ナルモ性ニ區別スレハ男性九八、一〇一、一〇三耗女性九三、九四、九八

耗ノモノ多數ヲ占メ、平均數ニ於テハ頭蓋數ノ多少ヲ論セス、一般ニ一致ス

長徑ト幅徑ハ如何ナル關係ヲ有スルヤ、
一、幅徑ヨリモ長徑ノ大ナルモノ

京都標本 五一、三% 女性 五〇、〇%
金澤標本 四四、四% 女性 四二、五%

二、長徑ヨリモ幅徑ノ大ナルモノ
京都標本 四一、〇% 女性 三八、一%
金澤標本 四六、八% 女性 四七、六%

三、長徑幅徑ノ同一ナルモノ
京都標本 七七、七% 女性 五、六%
金澤標本 八、八% 女性 一、七%

ノ如クニシテ一ニ屬スルモノハ京都標本ニ多ク性ニヨレバ京都標本ノ女性多數ヲ占ム、二ニ屬スルモノハ金澤標本ニ多ク性ニヨレバ京都標本ノ女性

最モ少ク、三ニ屬スルモノハ金澤標本稍々多ク性ニヨレバ京都標本共ニ男性ヨリモ女性多數ヲ占ムルハ性ニ關シ何カ相違アルニアラザルカ(計測)

ノ何レカヲ缺
クモノハ除ク)

多數ヲ占ムル長徑ハ二五耗ニシテ兩性共ニ其レヲ中心トシテ上下ニ漸々減
少ス平均數ニ於テハ兩性ノ差著シク即チ女性甚々小ナリ

京都標本計測頭蓋少キヲ以テ金澤標本ノ多數ヲ占ムル長徑ヲ掲ケンニ計測
頭蓋全体ニ於テハ三五耗ナルモ性ニ區別スレハ男性ハ三七耗ヲ最多トシ其
レヨリ上ハ漸々減少スルモ下ハ増減不正ナリ女性ハ前記ノ三五耗ヲ中心ト
シテ其上下ニ漸々減少ス、平均數ニ於テ男性ハ京都標本共ニ同一ナル
モ女性ハ金澤標本稍大ナリ又頭蓋全体ノ平均數ニ於テハ京都標本同一
ノ結果ヲ示ス

甲ノ如ク金澤標本ノ多數ヲ占ムル幅徑ハ計測頭蓋全体ニ於テ三〇耗ナルモ
性ニ區別スレハ男性ハ其レヲ中心トシ女性ハ二八耗ヲ中心トシテ各其上下
ニ漸々減少ス平均數ニ於テ性ニ對シテハ長徑ノ如ク計測頭蓋全体ニ於テハ
長徑ノ如シ

長徑ト幅徑ハ多ク前者長キモノニシテ稀レニ其レニ反スルモノ (金澤標本
ノ男性ニ
二) 或ハ兩徑ノ同一ナルモノアリ (京都標本ノ女性ニ一例) (金澤標本ノ兩性ニ各二例)

多數ヲ占ムル周長ハ計測頭蓋全体ニ於テ五〇八耗ニシテ性ニヨレハ京都標
本男性五〇五耗女性四八八耗金澤標本男性五一〇耗女性四九四耗ナリ然レ
トモ此ノ多數ト稱スルモノハ他ノモノヨリモ著シク多數ナルト云フ意味ニ
アラス、本表ノ如キ階級範圍ノ廣キモノニ於テハ各階級ノ有スル頭蓋數ハ
比較的僅少ナルヲ以テ他ノモノヨリモ稍々多シト云フニ過キス (以下ノ表
ニ於テモ往々如斯場合アルベシ) 平均數ニ於テハ一般ニ金澤標本ハ計測頭
蓋ノ少キ京都標本ヨリモ著シク大ニシテ次ノ額面周長ニ於テ此周長ト全然

反對ノ結果ヲ示スハ何カ理由アルベシ若シ計測ノ手加減トスレハ斯ク著シ
ク相違ヲ來ス恐レハ万ナカレシ故ニ余ハ此ノ兩周長ニ對シ實際ニ於テ然
ルヤ否後日ニ確証セントス

多數ヲ占ムル周長ハ三二〇耗ニシテ性ニヨレハ京都標本男性三三〇、三三三
六耗女性三〇六、三一六、三二〇耗、金澤標本男性三一五耗女性三〇八耗
ナリ平均數ニ於テ計測頭蓋ノ少キ京都標本ハ一般ニ金澤標本ヨリモ大ニシ
テ地平周長ト全然反對ノ結果ヲ示スモノナリ

多數ヲ占ムル周長ハ三七四耗ニシテ性ニヨレハ京都標本男性三五九、三七
一、三七四、三七七耗女性三五一耗、金澤標本男性三六六、三七二耗女性
三五二耗ナリ、平均數ニ於テハ一般ニ京都標本ハ一致ス

京都標本ハ計測頭蓋少キヲ以テ金澤標本ノ多數ヲ占ムル周長ハ二〇耗ニ
シテ性ニ區別スレハ男性一二八耗女性一二三耗ナリ、平均數ニ於テ一般ニ
京都標本ハ稍小ナリ

乙ノ如ク金澤標本ノ多數ヲ占ムル周長ヲ掲ケンニ二二六耗ヲ最多トシ性ニ
區別スレハ男性一三〇耗女性一二四耗ナリ、平均數ニ於テ男性ハ金澤標本
稍大ナルモ女性ハ著シク京都標本大ニシテ計測頭蓋全体ニ於テハ頭蓋數ノ
少キ京都標本ハ稍々大ナリ

乙ノ如ク金澤標本ノ多數ヲ占ムル周長ハ一一六耗ニシテ性ニ區別スレハ男
性ハ一一九耗女性ハ一一二、一一六耗ナリ平均數ニ於テ計測頭蓋數ノ差異
アルモ一般ニ金澤標本ハ大ナリ

今此ノ乙丙丁ニ就テ各骨相互ノ關係ハ如何ナル狀態ヲナスヤヲ調査シ其ノ
百分率ニヨリ示セハ (計測ノ何レカヲ
缺クモノハ除ク)

一、	顛頂骨長ク前頭骨其レニ次キ後頭骨ノ短キモノ	京都標本	金澤標本	京都標本	金澤標本	京都標本	金澤標本
二、	前頭骨長ク顛頂骨其レニ次キ後頭骨ノ短キモノ	三、一	三、七	二、六	七、三	三、〇	二、八
三、	前頭骨長ク後頭骨其レニ次キ顛頂骨ノ短キモノ	五、一	五、八	二、一	六、六	〇	四、六
四、	後頭骨長ク顛頂骨其レニ次キ前頭骨ノ短キモノ	五、一	二、七	五、六	二、六	四、八	二、八
五、	後頭骨長ク前頭骨其レニ次キ顛頂骨ノ短キモノ	二、六	一〇、八	〇	二、八	四、八	九、三
六、	顛頂骨長ク後頭骨其レニ次キ前頭骨ノ短キモノ	二、六	七、三	〇	五、九	四、八	九、三
七、	前頭骨顛頂骨同一ニシテ長ク後頭骨ノ短キモノ	二、六	二、三	五、六	二、六	〇	一、九
八、	顛頂骨後頭骨同一ニシテ長ク前頭骨ノ短キモノ	二、六	一、五	〇	一、三	四、八	一、九
九、	顛頂骨長ク前頭骨後頭骨同一ニシテ短キモノ	二、六	一、五	〇	二、〇	四、八	〇、九
十、	前頭骨後頭骨同一ニシテ長ク顛頂骨ノ短キモノ	二、六	〇、八	五、六	〇、七	〇、九	〇、九
十一、	前頭骨長ク顛頂骨後頭骨同一ニシテ短キモノ	〇	一、二	〇	〇、七	〇	一、九
十二、	後頭骨長ク前頭骨顛頂骨同一ニシテ短キモノ	〇	〇、四	〇	〇、七	〇	〇
十三、	前頭骨顛頂骨後頭骨同一ニシテ長ク有アルモノ	〇	〇、四	〇	〇、七	〇	〇

モ女性ハ八七耗ヲ最多トシ其レ以下ハ稍々漸々ニ減少スルモ其レヨリ上ハ増減不正ナリ、平均數ニ於テハ男性ハ金澤標本大ニシテ女性ハ其レニ反シ京都標本大ナリ又計測數全体ニ於テ京都金澤標本共ニ殆ト同一ナリ多數ヲ占ムル幅徑ハ九六耗ニシテ性ニ區別スレハ京都標本男性ハ九九耗女性ハ九五耗金澤標本ハ兩性共ニ九六耗ナリ平均數ニ於テ金澤標本ノ男性ハ京都標本ヨリモ大ニシテ女性ハ京都金澤標本ハ殆ンド同一ナリ又計測數全体ニ於テモ京都金澤標本ハ殆ント一致ス

多數ヲ占ムル幅徑ハ京都金澤標本ハ共ニ男性一三五耗女性一二六耗ニシテ計測頭蓋全体ニ於テハ男性ノ占ムルモノ即チ一三五耗最多數ニ存スルナリ平均數ニ於テ計測頭蓋全体ノ結果ハ京都金澤標本同一ニシテ性ニヨリテハ男性ハ京都金澤標本ニ差異ナク女性ハ金澤標本稍々小ナリ

多數ヲ占ムル高徑ハ七〇耗ニシテ性ニ區別スレハ男性ノ京都標本ハ七一耗金澤標本ハ七〇耗女性ノ京都標本ハ六七耗金澤標本ハ六六、六七耗ノモノナリ而シテ此ノ多數ヲ有スルモノナ中心トシテ正シカラサルモ其上下ニ減少シ行クモノナリ、平均數ニ於テ金澤標本ハ一般ニ(女性)小ナリ、此ノ平均數ニ於ケル女性ノ京都金澤標本ノ差異ハ金澤標本ニ幼者ヲ混スルノ結果ニアラサルカト意思シ試ミニ兩性ノ五三耗(以下ハ十歳)以下ヲ除キ其平均ヲ見シニ男性ハ京都標本ト殆ント一致シタルモ女性ハ然ラズシテ尙二耗餘ノ差アリテ金澤標本ハ小ナリ(二二歳ノ女性ニシテ五五耗一三歳ノ概ニ年齢ニ關係アル)次ノ顔面高徑ト共ニ彼我相違ノアルニアラスヤモノトモ認メ難シ

多數ヲ占ムル高徑ハ一二二耗ニシテ性ニ區別スレハ男性京都標本ハ一二二耗金澤標本一二二耗女性京都標本ハ一一三、一一四金澤標本ノ一一一、一

一三耗ニシテ金澤標本ノ男性ハ他ノモノヨリモ著ク多シ、平均數ニ於テ金澤標本ハ一般ニ(殊ニ女性)小ナリ前表ノ如ク年齡ノ關係ニモアラサルヤナリ

多數ヲ占ムル高徑ハ京都標本ハ三三耗金澤標本ハ三四耗ニシテ性ニ區別スルモ上記ノ如ク而シテ此ノ多數ヲ占ムルモノヲ中心トシテ其上下ニ漸々減少スルモノナリ平均數ニ於テハ京都標本共ニ性及ヒ數ノ如何ニ關セズ

同一ノ平均數ヲ示ス、又京都標本ハ最も多數ヲ占ムルモノト其平均數ハ殆ント一致シ金澤標本ハ男性ハ其ノ上ニ位スルモ女性ハ其レト一致ス

多數ヲ占ムル幅徑ハ四〇耗ニシテ性ニ區別スレハ京都標本ノ男性金澤標本ノ兩性ハ此レヲ最多トナスモ京都標本ノ女性ハ其レヨリ以下ノ三九耗ヲ最多トス而シテ各最多トスルモノヲ中心トシテ其上下ニ漸々減スルハ前表ノ

如シ、平均數ニ於テ性個々及計測頭蓋全体ニ於テ京都標本ハ殆ント同一ナリ、又此平均數ト多數ヲ占ムル幅徑トハ金澤標本ノ女性ヲ除キ一般ニ一致ス

多數ヲ占ムル高徑ハ五〇耗ニシテ性ニ區別スレハ男性京都標本ハ五一耗金澤標本ハ五三耗女性京都標本ハ四八耗、金澤標本ハ五〇耗ナリ平均數ニ於テ一般ニ金澤標本ハ京都標本ニ及ハズ

多數ヲ占ムル高徑ハ二五耗ニシテ性ニ區別スレハ男性ハ京都標本共ニ上記ノモノヲ最多トスルモ女性ノ京都標本ハ二四耗金澤標本ハ二六耗ヲ最多トス而シテ各々其最多トスル幅徑ヲ中心トシテ其上下ニ漸々減少ス、平均數ハ男性金澤標本ハ京都標本ヨリモ稍大ナルモ其他ハ一般ニ京都標本

本ニ差異ナシ
最モ多數ニ存スル幅徑ハ二〇耗ニシテ其他ノモノハ此レヲ中心トシテ其上

下ニ漸々減少ス平均數ハ殆ント此ノ中心數ニ一致シ性ニ關シテハ男女ノ差著シカラズ

多數ヲ占ムル長徑ハ四九耗ニシテ性ニ區別スレハ金澤標本兩性及京都標本ノ女性(京都標本ノ女性ハ此ノ外ニ)ハ此ヲ最多トシ京都標本ノ男性ハ五二耗ヲ最多トス各其最多數ヲ中心トシテ其上下ニ漸々減少ス、平均數ニ於テハ京都標本ハ一般ニ金澤標本ヨリモ大ナリ

多數ヲ占ムル幅徑ハ三八耗ニシテ性ニ區別スレハ京都標本ノ男性ハ此レヲ占メ女性ハ三五耗金澤標本ノ男性ハ三九耗女性ハ三四、三五耗ヲ最多トス平均數ニ於テハ甲ノ如ク京都標本ハ一般ニ稍大ナリ

京都標本ハ計測數僅少ナルヲ以テ金澤標本ノ多數ヲ占ムル幅徑ヲ掲ケンニ一一五、一二〇、一二六耗ニシテ前者ハ女性ノ占ムル所ニシテ後二者ハ男性ノ占ムルモノナリ、平均數ニ於テ女性ハ計測數ノ差異ニカ、ワラス京都

金澤標本ハ一致シ其他ハ一般ニ金澤標本ハ大ナリ
前表ノ如ク金澤標本ノ多數ヲ占ムル幅徑ハ一〇〇耗ニシテ性ニ區別スレハ

男性ハ其レト九九耗ノ二ヲ著シク多數ニ有シ女性ハ其レト九三、九五、耗ノ三ヲ最多トス、平均數ニ於テハ計測數ノ差異アルニカ、ワラス女性ハ京都標本稍大ニシテ其他ハ一般ニ京都標本ハ金澤標本ニ及ハズ

多數ヲ占ムルモノハ一三六度ニシテ性ニ區別スレハ男性一二四度女性ハ前記ノモノナリ、平均數ニ於テハ著シキ差異アリ殊ニ計測數ノ少ナキ女性ハ

男性ヨリモ傾斜ノ度強キハ此間何方性ニ關シ相違アルニアラサルカ
本報告ニ於ケル率數ヲ計算シタルハ左ノ如シ

頭骨幅高率數

100×高(第四表)
幅(第三表)

上顎幅顔面高率數

100 × 高(第一五表)

幅(第一二表)

上顎幅上顔面高率數

100 × 高(第一四表)

幅(第一二表)

類骨幅顔面高率數

100 × 高(第一五表)

幅(第一三表)

類骨幅上顔面高率數

100 × 高(第一四表)

幅(第一三表)

眼窠幅高率數

100 × 高(第一六表乙)

幅(第一六表甲)

鼻高幅率數

100 × 高(第一七表甲)

幅(第一七表乙)

口蓋長幅率數

100 × 幅(第一八表乙)

長(第一八表甲)

以下率數ニ就テ其比較ノ大要ヲ掲ゲン

本表ニ於テ何等種屬ノ區別ナキガ故ニ平均數ニ於テ述ヘンニ京都標本ト金澤標本ハ著シキ懸隔アリ即チ京都標本ハ計測數ノ少ナキニ拘ハラズ一般ニ金澤標本ヨリモ大ナルハ第三、四兩表ノ結果ニアラザルカ又金澤標本ノ女性ハ計測數男性ニ及ハザルモ尙稍大ナルハ是亦タ何カ原因アルニアラザルカ、此ノ率數ニ於テ比較的多數ナルハ一〇〇〇〇〇(即チ幅徑高徑ノ)ニシテ京都標本八、一〇〇(男性一、〇〇%)、金澤標本四、五〇(男性五、一〇%)ノ如キ結果ヲ得而シテ斯ノ如キモノハ男性ニ多シ

Virehow 氏ノ區別ニ從ク

甲 Breitgesichtige Schadel (——90.0)

乙 Schmalgesichtige Schadel (90.1——)

ノ二トナスモ京都金澤標本共ニ乙ニ屬スルモノナリ、平均數ニ於テ男性及

(原著及實驗)

第十八卷 第三號

六一

第八十六號

七

女性ハ京都標本著シク大ニシテ金澤標本ノ男性ト京都標本ノ女性ト一致シ女性ノ金澤標本ハ京都標本ノ女性ト著シキ差異アリテ小ナリ又計測頭蓋全体ニ於テモ金澤標本ハ著シク小ナリ尙此ノ平均數ハ大小ノ差アルモ一般ニ乙ニ屬スルモノナリ

前表ノ如ク Virehow 氏ノ區別ニ從ク

甲 Breitobergesichter (——50.0)

乙 Schmalobergesichter (50.1——)

ノ二トナスモ是亦タ前表ノ如ク全部乙ニ屬スルモノナリ、平均數ニ於テ男性ハ計測數ノ少キ京都標本大ニシテ金澤標本ハ小ナリ女性ハ計測數ノ僅ニ多キ京都標本ハ金澤標本ヨリモ著シク大ナリ計測頭蓋全体ニ於テ數ノ少キ京都標本ノ大ナルハ男性ト同様ナリ又京都標本ノ平均數ハ一般ニ一致シ、京都金澤標本ニ於ケル平均數ハ一般ニ乙ニ屬スルモノナリ

Kollmann 氏ノ區別ニ從ク

甲 Niedergesichtschadel (——90.0)

乙 Hohengesichtschadel (90.1——)

ノ二トシ其ノ頭蓋數ハ甲京都標本六三個(男性三六個) 金澤標本八五個(男性五二個) 乙京都標本一三七個(男性八三個) 女性二七個 金澤標本七二個(男性五五個) 女性三三個) 乙京都標本一三七個(女性五四個) 金澤標本七二個(女性一七個)ニシテ此ノ計測頭蓋全体ニ就テ其百分率ヲ示サンニ

	京都標本		金澤標本	
	男性	女性	男性	女性
甲	101	76	146	92
乙	132	151	154	88

ノ如クニシテ甲ハ金澤標本ニ多ク乙ハ京都標本ニ多シ然シテ男性ハ甲乙共ニ多數ニシテ女性ハ少ナシ又京都金澤標本ノ兩性ヲ相互ニ比較スレハ甲ハ金澤標本兩性共ニ京都標本ヨリモ多ク乙ハ京都標本ノ男性最も多ク金澤標本ノ男性其次キヲ占メ京都標本ノ女性ハ僅少ノ差ヲ以テ其レニ次キ金澤標本女性最も少シ、平均數ニ於テハ兩性共ニ金澤標本ハ京都標本ニ及パス又計測數全体ニ於テモ金澤標本ハ小ナリ、京都標本ノ平均數ハ前表ノ如ク一般ニ一致ス尙京都金澤標本ノ平均數ハ乙ニ屬スルモノナリト雖モ其ノ最小限ヲ隔タルコト僅少ナリ

前表ノ如ク

Kollmann 氏ノ區別ニ從ヒ

甲 Chamaeprosopie Obergesichter (—50.0)

乙 Leptoprosopie Obergesichter (50.1—)

ノ二トシ其頭蓋數ハ甲京都標本四二個(男性二五個)金澤標本七七個(男性四七個)女性) 乙京都標本一五二個(男性八七個)金澤標本一三〇個(女性四三三個)ニシテ此レヲ計測頭蓋全体ニ就テ其百分率ヲ示スニ

甲	京都標本	男性	六、二	女性	四、三	金澤標本	男性	一一、七	女性	七、五
	乙	京都標本	一一、七	女性	一六、二	金澤標本	男性	二二、七	女性	一〇、七

ノ如クニシテ前表ノ如ク甲ハ金澤標本ニ多ク乙ハ京都標本ニ多シ性ニ關シテハ男性ハ女性ヨリモ甲乙共ニ多數ヲ占ム又京都金澤標本ヲ比較スレハ甲ハ兩性共ニ金澤標本ニ多ク乙ハ男性ニ於テ京都金澤標本ハ共ニ同一ナルモ

女性ハ京都標本多數ヲ占メ金澤標本少ナシ、平均數ニ於テ計測數ノ少ナキ京都標本ハ一般ニ金澤標本ヨリモ大ナリ、京都標本ノ平均數ハ殆ント一致シ金澤標本ハ女性ヲ除クハ稍一致ス、尙京都金澤標本ノ平均數ハ乙ニ屬スルモノナリ此ノ率數ニ於テ最も多數ヲ占ムルハ五〇、〇〇ニシテ京都金澤標本共ニ女性ヨリモ男性ニ多シ、

眼窩ノ形狀ヲ

甲 Chamaekonchie (—80.0)

乙 Mesokonchie (80.1—85.0)

丙 Epsikonchie (85.1—)

ノ三ニ區別ス其頭蓋數ハ甲京都標本一〇個(男性八個)金澤標本二二個(男性一九個)女性) 乙京都標本六三個(男性四三個)金澤標本七八個(男性四九個)女性) 丙京都標本一四五個(男性七八個)金澤標本一八四個(男性九七個)女性)ニシテ此レヲ計測頭蓋全体ニ就テ其百分率ヲ示セハ

甲	京都標本	男性	一、六	女性	四、	金澤標本	男性	三、八	女性	六、
	乙	京都標本	八、六	女性	四、〇	金澤標本	男性	九、八	女性	五、八
丙	京都標本	一五、五	女性	一三、三	金澤標本	男性	一九、三	女性	一七、三	

ノ如クニシテ丙ニ屬スルモノ最も多ク乙其次キ甲最も僅少ナリ然シテ此三種ハ一般ニ京都標本ヨリモ金澤標本多ク又京都金澤標本ハ共ニ男性ハ女性ヨリモ多數ナリ、平均數ニ於テ男性ハ京都金澤標本殆ント一致シ女性ハ計測數ノ少キ京都標本ハ稍大ナリ計測數全体ニ於テハ金澤標本多數キニ

モ拘ハラス稍々小ナリ、此平均數ハ一般ニ丙ニ屬ス此率數ニ於テ最も多數ヲ占ムルハ京都標本ノ八七、五〇金澤標本ノ八九、四七ニシテ前者ハ男性後者ハ女性多ク占ム

- 鼻ノ形狀ヲ
- 甲 Leptorhinie (—47.0)
 - 乙 Mesorhinie (47.1—51.0)
 - 丙 Platyrrhinie (51.1—58.0)
 - 丁 Hyrpeplatyrrhinie (58.1—)

ノ四種ニ區別シ其頭蓋數ハ甲京都標本五一個(男性三七個)金澤標本五〇個(男性三八個)乙京都標本七七個(男性五二個)金澤標本八五個(男性五四個)丙京都標本八〇個(女性四二個)金澤標本一一九個(女性五九個)丁京都標本一〇個(男性三個)金澤標本三一一個(女性一六個)ニシテ此レヲ計測頭蓋全体ニ就テ其百分率ヲ示セバ

	京都標本		金澤標本	
	男性	女性	男性	女性
甲	七、四	二、八	七、六	二、四
乙	一〇、三	五、〇	一〇、七	六、二
丙	七、五	八、三	一一、七	一一、九
丁	六、六	一、四	三、〇	三、二

ノ如クニシテ一般ニ丙最も多ク乙甲其レニ次キ丁最も少シ此ノ四種ハ一般ニ京都標本少ク金澤標本多シ、然シテ今京都金澤標本ヲ比較スレハ丙ハ男性性ニ少ク女性ニ多ク且ツ金澤標本ハ京都標本ヨリモ著シク多ク乙ハ丙ニ反

シ女性著シク少クシテ男性多ク京都金澤標本ノ差著シカラス、甲ハ乙ノ如ク女性多キモ男性トノ差著シカラス又京都金澤標本ハ殆ント一致ス丁ハ丙ノ如ク女性ニ多シ、然シテ京都標本ハ金澤標本ヨリモ著シク少ク且ツ其男性ハ最著シキモノナリ平均數ニ於テハ一般ニ金澤標本大ナリ此平均數ハ京都金澤標本ノ男性及京都標本計測頭蓋全体ハ乙ニ屬シ其他即チ京都金澤標本ノ女性及金澤標本計測頭蓋全体ハ丙ニ屬スルモノナリ此率數ニ於テ最も多數ヲ占ムルハ京都金澤標本共ニ五〇、〇〇ニシテ男性ニ多數ナリ

- 口蓋ノ形狀ヲ
- 甲 Leptostaphylie (—80.0)
 - 乙 Mesostaphylie (80.1—85.0)
 - 丙 Brachystaphylie (85.1—)

ノ三ニ區別ス、其頭蓋數ハ甲京都標本一六八個(男性九六個)金澤標本一五六個(男性一〇二個)乙京都標本一〇個(男性七個)金澤標本一四個(男性一四個)丙京都標本一〇個(女性二個)金澤標本八個(女性三個)ニシテ此レヲ計測頭蓋全体ニ就テ其百分率ヲ示セバ

	京都標本		金澤標本	
	男性	女性	男性	女性
甲	二六、二	一九、七	二七、九	一四、八
乙	一、九	〇、八	二、七	一、一
丙	二、二	〇、五	一、四	〇、八

ノ如ク甲ハ乙ヨリモ著シク多數ニ存シ此レニ屬スルモノハ男性ハ女性ヨリモ多シ然シテ金澤標本ノ男性多ク女性最も少ナク京都標本ハ其中間ノ數

ヲ占ム乙ニ屬スルモノハ僅少ニシテ男性ハ金澤標本ニ多ク女性亦々然リ、
 丙ニ屬スルモノ最モ少ク且ツ此ニ屬スル男性ハ甲乙ノ如ク多數ナリ殊ニ此
 ニ屬スル男性ハ甲乙ニ反シ京都標本ニ多ク女性ハ金澤標本ニ多シ、平均數
 ニ於テ京都標本ノ女性及計測頭蓋全体ハ稍々小ナルモ其他頭蓋數及性ノ
 如何ニ關セズ一般ニ一致ス又此平均數ハ京都金澤標本共ニ甲ニ屬スルモ
 ノナリ

以上掲ケシ比較ノ大要ヲ概括スレハ最大幅徑及最大高徑ハ計測數ノ少ナキ
 京都標本ハ一般ニ金澤標本ヨリ著シク大ナリ頭蓋基底長徑ハ男性及計測頭
 蓋全体ニ於テ金澤標本稍々大ナルモ女性ハ數ノ如何ニ關セス京都金澤標本
 ハ殆ント一致ス、同幅徑京都金澤標本共ニ一致ス、頭蓋基底ハ計測數ニ差
 異アルモ京都標本ニ於テハ長徑ノ幅徑ヨリモ長キモノ多ク金澤標本ハ其レ
 ニ反スルモノ多シ又長徑ト幅徑ノ同一ナルモノハ京都金澤標本共ニ僅少ナ
 リ(後頭骨基礎部長徑ハ頭蓋數ノ差アルモ女性ハ甚々短キモノナリ)後頭
 孔長徑及幅徑ハ計測數ノ差アルモ男性及計測頭蓋全体ニ於テ京都金澤標本
 ハ殆ント一致シ女性ハ京都標本稍々小ナリ、地平周長及額面周長前者ハ一
 般ニ金澤標本著シク大ナルモ後者ハ其レニ反シ京都標本大ナリ、矢狀周長
 京都金澤標本共ニ一致ス、前頭骨矢狀周長ハ一般ニ金澤標本稍々大ナリ、
 顛頂骨矢狀周長男性ハ金澤標本稍々大ナルモ女性及計測頭蓋全体ニ於テ計
 測數ノ僅少ナル京都標本ハ稍々大ナリ、後頭骨矢狀周長男性及計測頭蓋全
 體ニ於テ京都標本ハ著シク小ニシテ女性ハ金澤標本稍々大ナリ、以上ノ三
 矢狀周長ノ關係ハ京都金澤標本共ニ多クハ「顛頂骨矢狀周長、前頭骨矢
 狀周長、其次、後頭骨矢狀周長、短キモノ」ニシテ「前頭骨矢狀周長、長

ハ、顛頂骨矢狀周長、其次、後頭骨矢狀周長、短キモノ」ハ前者ノ約半數
 ナ占メ其他ノモノハ僅少ニ存スルモノナリ、前頭骨最小幅徑男性ハ金澤標本
 女性ハ京都標本著シク大ニシテ計測頭蓋全体ニ於テハ京都金澤標本稍々一
 致ス、上頸幅徑男性ハ金澤標本大ニシテ女性ハ京都標本稍々大ナリ計測頭
 蓋全体ニ於テハ京都金澤標本ハ殆ント一致ス、額骨弓幅徑男性及計測頭蓋
 全体ニ於テ京都金澤標本ハ一致スルモ女性ハ京都標本大ナリ、上顏面高徑
 一般ニ京都標本大ナリ而シテ金澤標本ノ男性ハ京都標本ノ計測頭蓋全体ト
 一致シ京都標本ノ女性ハ金澤標本ノ計測頭蓋全体ト一致ス、顏面高徑金澤
 標本ハ一般ニ京都標本ヨリモ著シク小ナリ、眼窩高徑金澤標本ノ女性ハ稍
 々小ナルモ其他ハ計測數及性ノ如何ニ關セス一般ニ京都金澤標本ハ一致
 ス、同幅徑京都金澤標本ハ計測數ノ如何ニ關ハラズ一致ス、鼻高徑金澤標
 本ハ一般ニ京都標本ヨリモ小ナリ、同幅徑京都金澤標本ハ殆ント一致(鼻
 根幅徑計測數ニ差アルモ女性ハ稍々小ナリ)口蓋長徑及幅徑一般ニ金澤標
 本(殊ニ女性)小ナリ、下顎骨關節間幅徑男性及計測頭蓋全体ハ金澤標本
 稍々大ナルモ女性ハ計測數ノ少キ京都標本ト金澤標本ハ殆ント一致ス、同
 角同幅徑男性及計測頭蓋全体ハ金澤標本著シク大ナルモ女性ハ計測數ノ少
 キ京都標本反テ大ナリ(下顎枝角度女性ハ計測數ノ少キニモ不拘男性ヨリ
 モ傾斜ノ度強シ)頭蓋幅高率數京都標本ハ計測數少キニモ不拘一般ニ金澤
 標本ヨリモ大ナリ、上頸幅顏面高率數京都金澤標本共ニ Schmalgestaltige
 Zittel ナリ金澤標本ハ一般ニ京都標本ヨリモ著シク小ニシテ前者ノ男
 性ト後者ノ女性ト一致ス、上頸幅上顏面高率數京都金澤標本共ニ Schmal-
 obergestaltiger ナリ、金澤標本ハ一般ニ京都標本ヨリモ小ナリ、額骨幅徑

面高率數(京都標本) (乙) Hologesichtsbreite 著シク多ク金澤標本 (甲) Niederagesichtsbreite 多シ京都標本 (乙) 共ニ男性ハ多ク女性多シ金澤標本 (甲) 女性ニ多ク (乙) 男性ニ多數ナリ金澤標本ハ計測數ノ關係アルベキモ一般ニ京都標本ヨリ小ナリ、額骨幅、顏面高率數京都標本 (乙) Leptroprosope Obergesicht 稍々多ク金澤標本 (甲) Chamaeprosopie Obergesicht 著シク多シ、京都金澤標本ノ男性 (甲) (乙) 共ニ女性ヨリモ多シ京都標本ハ計測數少キニモ不拘金澤標本ヨリモ一般大ナリ、眼窩幅高率數京都標本ハ共ニ (丙) Hypsikonchie 最モ多ク (乙) Mesokonchie 前者ニ半ハシ (甲) Chamaekonchie 最モ少シ、而シテ此三種ハ京都標本ヨリモ金澤標本ニ多ク又女性ハ三種共ニ男性ヨリモ少シ、京都金澤標本ノ男性ハ稍一致スルモ女性及計測頭蓋全体ニ於テ京都標本ハ計測數少キニモ不拘稍々金澤標本ヨリモ大ナリ、鼻高率數京都金澤標本共ニ (丙) Platyrrhinie 最モ多ク (乙) Mesorrhinie 其ノニ次キ (甲) Leptorrhinie 少ク (丁) Hyperplatyrrhinie 最モ僅少ナリ此四種ハ何レモ金澤標本ハ京都標本ヨリモ多シ、(甲) (乙) ハ男性ニ著シク多數ニシテ (丙) (丁) ハ女性稍々多シ、金澤標本ハ一般ニ京都標本ヨリモ大ナリ、口蓋長幅率數京都金澤標本ハ共ニ多ク (甲) Leptostaphylie ニシテ (乙) Mesostaphylie (丙) Brachystaphylie ハ僅少ナリ (甲) ハ男性金澤標本女性京都標本 (乙) ハ両性共金澤標本 (丙) ハ男性京都標本女性金澤標本ニ多シ、京都標本ノ男性ト金澤標本ハ一般ニ一致シテ大ナルモ計測數ノ多キ京都標本ノ女性及計測頭蓋全体ハ著シク小ナリ

男性ハ前頭最小幅徑(京都標本)下顎枝角(金澤標本)幅高率數(金澤標本)眼窩幅高率數(京都金澤標本)鼻高率數(京都金澤標本)ノ五ヲ除キ他ハ何レ

モ女性ヨリ大ナルモノナリ (未完)
(卷末ニ正誤アリ)
(大正元年十二月稿)

● 紅肢痛ノ一例

Ein Fall von Erythromelalgie.

石川縣江沼病院醫員 岡田申吉

紅肢痛ニ就テハ十全會雜誌第六十二號ニ同窓楠田利一郎氏金澤病院及諸大家ノ報告并ビニ其症狀原因等詳シク記載サレタルヲ以テ茲ニハ唯小子ガ實驗シタル一例ヲ舉ゲ餘ハ該十全會雜誌ニ讓ラントス

福井縣坂井郡北潟村

患者 農 某 ヲマ

二十一年

初診 大正元年十二月二十日
發病 大正元年十二月九日
入院 大正元年十二月二十日
婚嫁 大正元年九月
両側上肢、下肢ノ末端對稱的ニ發作的電擊様疼痛暗紫赤色ノ腫脹
振頭
既往症 生來健全ナルモ時々胃痙アリ、本年十一月ヨリ癱疾及梅毒ニカ

カル 性質 溫順、慣癖ムグリバラ、學業小學二年、喫茶、喫煙、飲酒